

## 林業就業希望者のための「求職支援ツール」の作成

森と木のクリエイター科 林業専攻 佐藤 真希子

### 1. 研究背景

少子高齢化社会が進む昨今、人材不足は経済界において大きな課題である。林業も例外でなく、人材の確保に苦慮している。その原因には、業界の認知度の低さや中小企業が大半である事などが考えられる。求人には資金・時間・マンパワーが必要なため、活動が思うよう出来ないのが現実である。それを補填するために、全国森林組合連合会等が中心となり、就業イベントや移住雑誌などへのアプローチも行っているが、効果は緩やかである。

一方、「離職しない人材確保」も、また人材不足の対策といえる。定着させるためには就業希望者を増やすアプローチのみでなく、「充実した就職」「高い就職満足度」につながる為の求職サポートが必要であると考えられる。自身の就職イベントへの参加、本校での学びや実務者のヒアリングを進める中で、求職者にとって一層充実した求職活動をサポートするには何が出来るのかを考えた。

### 2. 研究の目的

林業の求職者に、林業業界の全体像や知識など、「俯瞰した視野」を持ってもらうことで、入職後における「求職者」「会社」「実際の職務」のアンマッチの最小化を図り、「離職率の低下」「就職満足度の向上」を目指す。そのために、林業業界の全体像を解説する求職支援のツールを作成・解説を行うこととした。

### 3. 研究の手法

岐阜県内外の森林組合・林業会社及び実務者のインタビューを中心に求職支援ツールを作成。本校学生へのセミナー実施や各地の就業支援部門への取材や意見交換等の協力を得て効果の有無を確認した。

### 4. 計画・実施

#### a. 「会社選びのための業界地図」の作成

「会社選び」とは「業界全体」を理解して、その中で興味あるジャンルを見極め、その「各々の会社」を知り選ぶものであろう。そのために、今回必要な情報は「業界全体像」と「個々の会社紹介」であると考えた。

「業界の全体像」は、経済誌や新聞社が出版している「業界地図」から着想を得て、林業における「業界地図」の作成を計画した。

「初心者が理解できる情報量」を意識したため、「業界地図」のような数値は除き、業務形態に着目してまとめた。また、分かりやすさを重視し、製材は除いて「素材生産会社・森林組合」を取り上げ作成した。(図1)

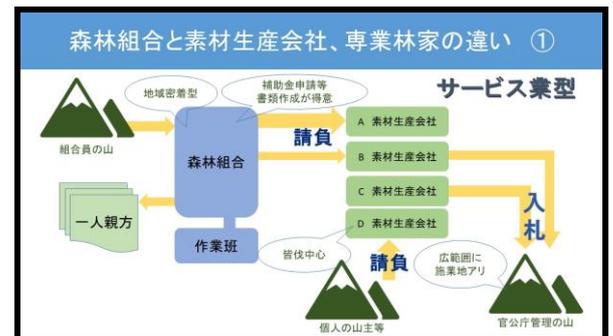


図1：業界地図（全体図）

会社紹介は全12社に協力を頂き、取材に訪問した。しかし、取材を進める中で「欲しい人物像」「会社の魅力・独自性」について、つかみ切れないことがあった。その理由として中小企業のため求人活動に対しての「投資」が後回しになりがちであることや、地域密着（口利きや地元のつながり等）の就職が多い事などがある。そのため、求人に対して受け身であったり、日常業務に押し付けられているケースもあると考えられる。そのため、資料作成には企業側との想いのすり合わせなど、さらに準備が必要であるため、次回への課題として持ち越した。

#### b. 「仕事選びのための業務地図」の作成

求職者は会社を選ぶ前に「どういう仕事に就きたいか」を考える必要がある。一般的な林業の仕事セミナーでは「木を伐る」作業が目立がちで、それ以外の職務について説明されることは少ない。まず、それを解消することが重要だと考え、「森林から木材へ」の流れを軸とし、職種をその中に落としこむ資料の作成を考えた。(図2) これにより「森林から木材へ」への流れの中で、自らの立ち位置を知り、仕事をイメージすることが出来る。併せて、紹介した「職種」に呼応する、実務者のインタビュー形式による職務紹介を作成(図3)。答えていただいた実務者を実名で紹介し、どういう経緯で入職したかや将来どう成長したいかを落とし込み、読み手

側が自身と重ねてイメージをしてもらえるよう工夫をした。

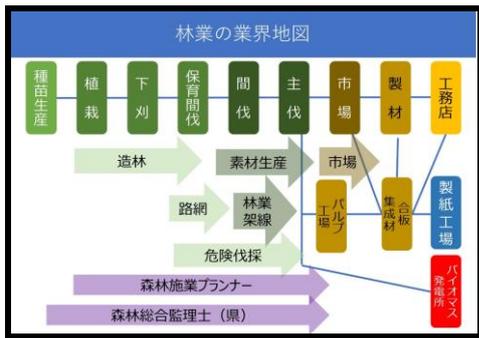


図2：業務地図（全体図）

W-1 原木市場職員

インタビュー：荏井 明宏さん（岐阜県森林組合連合会・岐阜林産物共販所）

Q1：ズバリ、どんなお仕事ですか？  
原木市場の運営と直送システム（原木を山から直接製材工場へ送るシステム）の管理。「少しでも材高が上がるように」山側の造材や直送ラックの品質維持のための指導と普及の業務も担っています。

Q2：勤務は直行？事務所集合？  
主に事務所（原木市場内）ですが、月に5、6回は出荷者さんの山に向きます。直行する日もあります。

Q3：現在の仕事の比率は？  
市場20% 直送80%

Q4：この仕事に就いた経緯は？  
森林高校の必修に選り入れ、習熟後、最初は測量が中心の森林調査部配属になる。その後、測量部門（小さな消耗品が専ら取り扱う）へ。卒業共販所を経て現在の岐阜共販所に配属になる。現在は、主に担当管内の材高をコントロールする際、月二回の定期的訪問を行っている。

Q5：一日の過ごし方は？  
8:00から17:00まで仕事。昼休み以外にも10:00-15:00に休憩時間が決められている。

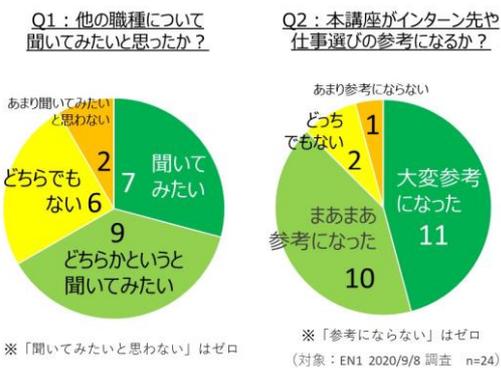
Q6：この仕事に就いて驚いたことは？  
最初の配属時、測量に行かば思っておらず意外であったが、それが1分野のある職種であると思った。

Q7：この仕事に向いている人、持っているといふスキルは？  
人とコミュニケーションは必要。出材が滞りないことも重要。敬意を払って丁寧に話が出来たり、立てて送せる人は向いていると思う。また、土木の基礎的な知識なども良いため、そういう知識を持っていると大きなアドバンテージになる。森林施業プランナーなども、持っているといふスキルは？

図3：業務地図（個別インタビュー）

c. 効果測定（実施）

①9 / 8 : エンジニア科1年生向けセミナー  
対象者：エンジニア科1年（24名）  
一定の知識・関心を持って、かつ林業への強い就職意欲を持っている層であるため、『「会社選びのための業界地図」講座』のみ行い、その効果についてアンケートを実施した。



Q1の質問で「他の職種について」は66.7%が関心を示し、Q2の質問では87.5%は「仕事選びの参考になる」と回答。一定の効果があつた。

②12/12 : ぎふ林業体感・見学セミナー  
対象者：森のジョブステーションぎふ主催の現場見学イベント参加者（アンケート回答・8名）  
本対象者は林業に興味はあり、自ら申込により現場見学会に参加。今回は『「会社選びの

ための業界地図」+「職務選びのための業務地図」(全体図)』を解説する講座を実施した。そして下記の通り、アンケート結果を得た。

Q1: 講座を聞いて林業の仕事に興味がありましたか？  
Q2: 林業の仕事への就労意欲が高まりましたか？



業界の情報を整理し伝えることで、興味・関心を膨らまし、一定の意欲を引き出すことが出来たと考える。参加者からは「森林施業プランナーという仕事を初めて知り、興味を持った」との意見も聞かれ、多様性を伝えることが出来た。

6. 外部評価

セミナー形式での発表以外に、岐阜県内外の林業の担い手担当者の方々や他の林業大学の先生等に資料の評価を頂いた。その中で下記のご意見を頂いた。

- ・業務地図（個別インタビュー）は匿名でなく、実名でまとめており求職者自ら追いかけて訪ねることも出来て良い（他林業大学校先生）
- ・他の地方でも使用出来そう（他林業大学校先生）
- ・実際の現場見学や動画等とのリンクすると更に理解が深まりいいのでは（担い手担当）
- ・今後もう少し個別インタビューの種類が増えると面白い（担い手担当）

使い方や運用にアドバイスを頂き、趣旨や方向性については賛同を得ることができた。

5. 考察

業界や仕事の全体像を知る事により、就職意欲や関心を高める事が出来ると考える。また、全体像を知れば、関連業務や職種にも関心を広げる効果が期待でき、「俯瞰した目での仕事選び」につながる。ただターゲット（学生、一般求職者など）により予備知識に差があり、提供する情報や見せ方・伝え方も意識する必要を感じた。イベント等を行う際にも、それを踏まえイベント全体をコーディネートする事で高い効果が期待できる。

企業側も「自社の魅力」「求める人材」について、はっきり示す事が必要だと感じる。求職者も「期待されている将来像」が理解できれば、就職後のミスマッチが減り、離職率の低下につながると思われる。